

その 6

万葉秀歌

& 万葉歌人ランキング



田兒之浦從 打出而見者 真白衣 不盡能高嶺尔 雪波零家留

「田子の浦ゆ うち出でて見れば ま白にそ 富士の高嶺に 雪は降りける」

(田子の浦越しに うち出て見ると 真っ白に 富士の高嶺に 雪が降っている)

山部赤人(巻 3・318)

万葉集には、4516 首もの歌が収められているが、その約半数は作者未詳歌で、その他、記名のある作者が約 480 人とされている。そこには、天皇や貴族、宮廷歌人に始まり、無名の歌人や下級役人から庶民、農民、乞食人に至るまで、様々な身分や多様な職業に従事する人々が作った歌が収められている。

さて、「日めくり万葉集」は、万葉集を愛してやまない選者が、毎朝一人「日めくり暦」をめくるように万葉集をひもとき、「一日一首」を選んで歌への熱き思いを語ってもらう番組だ。そこで、選者の方々は、天皇から庶民までという万葉集に倣って、各界で活躍されている幅広い分野の方々に声をかけさせてもらった。万葉集の専門的な解説ではなく、それぞれの仕事や立場、そして人生経験を踏まえて、現代的な視点から万葉集を読み解き、万葉集の魅力とそれぞれ好きな歌への思いのたけを語ってほしかったからである。残念ながら、さすがに天皇陛下に選者を務めていただくことはかなわなかったが、その後、思いがけない僥倖、その人に言わせると「望外の幸せ」があり、当時の天皇皇后両陛下、現上皇ご夫妻にお好きな万葉秀歌をお聞きすることができたので、それについては次々回改めてご紹介する。

番組に選者として出演していただいた方は、各界を代表する文化人等総勢 168 人に及んだ。1 人平均 3 首、それぞれがお好きな万葉秀歌、或いは一番思い入れの深い歌を選んでいただくことにしたが、万葉集には 4516 首もの歌がある訳だから、出来るだけ多くの歌を取り上げ、視聴者の皆さんに紹介したいということで、出来たら歌の重複は避けていただくようお願いした。つまり、前に出演いただいた選者の方が

選んだ歌は、出来るだけはずしてもらい、その場合は、他の方々が取り上げていない歌を選んでいただく、という無理なお願いをした。ただし、選者の方によっては、「一番好きな歌」、或いは「一番思い入れがある歌」で、どうしてもはずすことができないという方もいたので、その場合は重複してもやむを得ないとして選歌に加えた。

その結果、480 回にわたる「日めくり万葉集」で、168 人の選者の方々が取り上げた歌の数は、457 首となった。ちょうど、万葉集に収められている 4516 首のおよそ 1 割にあたる。

そして、何人かの選者の方が、「どうしても」ということで、重複して選んだ万葉秀歌は、5 人が選んだ歌 1 首。それが冒頭の「田子の浦ゆ」の歌。歌聖ともいわれた山部赤人は、「もしかしたら鬼病で亡くなったのかの知れない」と高岡市万葉歴史館坂本館長が推測する万葉を代表する歌人である。次に、4 人の選者が選んだ歌が 2 首、3 人が選んだ歌 9 首、2 人が選んだ歌 47 首となった。これらの歌が、必ずしも、万葉秀歌のランキングになるわけではないが、結果的には、広く知られ、一般の方々にも人気が高い歌と重なったのはなかなか興味深いところだ。万葉秀歌を選ぶランキングやアンケート調査はいくつかあるが、「日めくり万葉集」の選者が選んだ万葉秀歌ランキングとして紹介するのも一興だろう。そこで、これらの歌を一応ベスト10として、1位の赤人の歌の後、2位以下の11首を次にリストアップする。(歌番号順)

② 「茜さす 紫野ゆき 標野ゆき 野守は見ずや 君が袖振る」 額田王(巻 1・20)

◇ 「君待つと 我が恋ひ居れば 我がやどの 簾動かし 秋の風吹く」 額田王(巻 4・488)



④ 「籠もよ み籠持ち 掘串もよ み掘串持ち この岳に 菜摘ます児 家聞かな 名告らさね
そらみつ 大和の国は おしなべて われこそ居れ しきなべて われこそ座せ われこそは
告らめ 家をも名をも」 雄略天皇(巻 1・1)

◇ 「我が里に 大雪降りり 大原の 古りにし里に 降らまは後」 天武天皇(巻 1・103)

◇ 「あをによし 奈良の都は 咲く花 のにほふがごとく 今盛りなり」 小野老(巻 3・328)

- ◇ 「この世にし 楽しくあらば 来む世には 虫に鳥にも 我はなりなむ」 大伴旅人(巻 3・348)
- ◇ 「家にあらば 妹が手まかむ 草まくら 旅に臥せる この旅人あはれ」 聖徳太子(巻 3・415)
- ◇ 「夢の会ひは 苦しかりけり 驚きて 搔き探れども 手にも触れねば」 大伴家持(巻 4・741)
- ◇ 「天の海に 雲の波立ち 月の舟 星の林に 漕ぎ隠る見ゆ」 柿本人麻呂歌集(巻 7・1068)
- ◇ 「春の園 紅にほふ 桃の花 下照る道に 出で立つ娘子」 大伴家持(巻 19・4139)
- ◇ 「新しき 年の初めの 初春の 今日降る雪の いや重け吉事」 大伴家持(巻 20・4516)

以上を、「日めくり万葉集」が選んだ「万葉秀歌ランキング」とすると、同じく、「万葉歌人ランキング」も挙げる事ができる。選者の皆さんが選んだ歌は、重複したものを除いて、全部で457首だったことは前述した。そして、この457首の歌の内、最も多く取り上げられた歌人のベスト10、及び取り上げられた歌の数は次のようになった。

- ① 大伴家持 (選んだ選者の数 64 人、歌の数 53 首)
- ② 柿本人麻呂 (28 人、24 首。その他人麻呂歌集から、26 人、23 首。計 54 人、47 首)
- ③ 山上憶良 (25 人、23 首) ④ 大伴旅人 (16 人、13 首) ⑤ 額田王 (15 人、8 首)
- ⑥ 山部赤人 (13 人、7 首) ⑦ 大伴坂上郎女 (11 人、10 首) ⑧ 高橋虫麻呂 (9 人、8 首)
- ⑨ 天武天皇 (大海人皇子時代を含む) (7 人、3 首) ⑩ 高市黒人 (6 人、6 首)



万葉集の最終的な編者とされる大伴家持が第1位で最も多く取り上げられているが、一方万葉集に最も多く歌が収められているのも、また大伴家持である。

万葉集に載っている歌の数が多き歌人のベスト10は次の通りである。

- ① 大伴家持 473 首 (479 首という説もある) ② 柿本人麻呂 84 首 (或本歌および異伝歌を含む。その他に、柿本人麻呂歌集の歌 365 首がある) ③ 大伴坂上郎女 84 首

- ④ 大伴旅人 78 首 ⑤ 山上憶良 76 首 ⑥ 山部赤人 50 首 ⑦ 笠金村 45 首
⑧ 田辺福麻呂 44 首 ⑨ 中臣宅守 40 首 番外 額田王 13 首（その内の 1 首は同じ歌）

柿本人麻呂歌集を別にすると、こちらも家持の歌が、飛びぬけて多い。従って、「日めくり万葉集」の選者が選ぶ歌も、家持が多くなるのは当然とも言えるが、それにしても、家持を選んだ方が断然多かったということは紛れもない事実である。歌の数が多いからと言って、肝心の歌がよくなければ、選者が家持を選ぶはずもない。そして、全部で 12 首の歌しか残されていない額田王が、15 人の選者から、12 首の内 8 首、それも初回に書いたように、12 首の内 1 首は未解読歌であることから、実質 11 首の内 8 首が取り上げられている。そのうち 2 首がともに第 2 位を占めているところを見ても、やはり万葉集のスーパースターの面目躍如たるものがある。

いずれにせよ、「日めくり万葉集」の選者にとって、最も人気があった万葉歌人は大伴家持だったことは間違いないところだろう。きら星のごとき万葉歌人の中で、家持は、額田王と並んで、万葉のスーパースターと言っても過言ではない。

後日、私はこのスーパースターを、勝手に「万葉ファンタジスタ」と命名することになる。ファンタジスタとはサッカーのスーパースターを指す呼称だが、もともとはイタリア語で、人々を魅了するファンタジアを語る役者や詩人のこと。つまり、万葉ファンタジスタとは、万葉のファンタジーを語るスーパースターのことで、ここに挙げた万葉を代表する歌人たちは、家持のみならず全員がファンタジスタの名に相応しい、いや、まぎれもなく万葉ファンタジスタだ。

ところで、かく言うお前、「万葉集宣伝係」として、「好きな歌、好きな歌人は？」と、問われたら、どうか。万葉ファンタジスタ家持とその 4516 番の万葉集最終歌はすでに上げたが、皆さんの「好きな歌、好きな歌人、好みのファンタジスタ」は？



大伴家持像
(高岡)